

第3章

もしものとき

～突然の病気や事故に備えて～



健康状態

記入日： 年 月 日

●健康のこと（かかりつけの医療機関や薬局など）

医療機関名	診療科名	病名
主治医		

いつも飲む薬

おくすりは変わることもあるので定期的に記載内容を見直しましょう。

かかりつけ薬局（ ） お薬手帳（有【場所： 】 ・ 無）

メモ

※今までにかかった大きな病気やアレルギー等

●介護のこと（訪問看護やヘルパーなど利用しているサービスや相談している機関）

種別・担当者名	事務所名	備考
ケアマネジャー		

●健康保険証等の有無 ※○をつけてください。

* 健康保険証 有 ・ 無

* 介護保険証 有 ・ 無

* 障害者手帳等 有 ・ 無

* マイナンバーカード 有 ・ 無

メモ

※種別や保管場所等

もしものときに備えて…

誰もが命に関わる大きな病気や怪我をする可能性があります。

最期まで自分らしく生きるために、自分のことを自分で決められなくなった「もしものとき」に備えて今の希望や想いを整理しておきましょう。

そして家族や友人、医療関係者等と“繰り返し”話し合っただけで考えを伝え、共有しておくことが大切です。話し合った日付や場所、誰と話したかも記しておきましょう。また、誰もがなり得る「認知症」についても、もしもの場合に備え考えておきましょう。



大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議 大和郡山市医師会

● 記入した日と一緒に話し合った人を記入しましょう。

	日 付	誰と(家族、友人、医療・介護サービス関係者など)
1回目	年 月 日	
2回目	年 月 日	
3回目	年 月 日	

医療についての希望

● 病名や余命の告知について

*あなたの希望に近い選択肢の数字に○をしましょう。

	記 入 日		
	年 月 日	年 月 日	年 月 日
病名や余命の告知について	1	1	1
①希望する	2	2	2
②希望しない	3	3	3
③家族等の判断に任せる	4	4	4
④その他の希望(下記に具体的に記入)			

●延命治療等について〔選択肢の具体的な内容については、12～13ページをご参照ください。〕

A 急に状態が悪化したとき

①ほぼ回復する見込みがない場合

*あなたの希望に近い選択肢の数字に○をしましょう。

		記入日		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日
選択肢 1	生命維持のための最大限の治療を希望する。 ⇒心臓マッサージ、人工呼吸器など	1	1	1
選択肢 2	最大限の治療までは希望しないが、継続的な 栄養補給は希望する。 ⇒胃ろう、経鼻経管栄養、中心静脈栄養など	2	2	2
選択肢 3	延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。	3	3	3
選択肢 4	その他の希望（下記に具体的に記入）	4	4	4

②回復する見込みがあるが、寝たきりになる可能性
が高い場合

*あなたの希望に近い選択肢の数字に○をしましょう。

		記入日		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日
選択肢 1	生命維持のための最大限の治療を希望する。 ⇒心臓マッサージ、人工呼吸器など	1	1	1
選択肢 2	最大限の治療までは希望しないが、継続的な 栄養補給は希望する。 ⇒胃ろう、経鼻経管栄養、中心静脈栄養など	2	2	2
選択肢 3	延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。	3	3	3
選択肢 4	その他の希望（下記に具体的に記入）	4	4	4

B 徐々に状態が悪化したとき（認知症など）

①状態も低下し、回復の見込みがない場合

*あなたの希望に近い選択肢の数字に○をしましょう。

		記入日		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日
選択肢 1	生命維持のための最大限の治療を希望する。 ⇒心臓マッサージ、人工呼吸器など	1	1	1
選択肢 2	最大限の治療までは希望しないが、継続的な 栄養補給は希望する。 ⇒胃ろう、経鼻経管栄養、中心静脈栄養など	2	2	2
選択肢 3	延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。	3	3	3
選択肢 4	その他の希望（下記に具体的に記入）	4	4	4

②寝たきりの状態になった場合

*あなたの希望に近い選択肢の数字に○をしましょう。

		記入日		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日
選択肢 1	生命維持のための最大限の治療を希望する。 ⇒心臓マッサージ、人工呼吸器など	1	1	1
選択肢 2	最大限の治療までは希望しないが、継続的な 栄養補給は希望する。 ⇒胃ろう、経鼻経管栄養、中心静脈栄養など	2	2	2
選択肢 3	延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。	3	3	3
選択肢 4	その他の希望（下記に具体的に記入）	4	4	4

介護についての希望

*あなたの希望に近い数字を右記の口に記入しましょう。

	記入日		
	年 月 日	年 月 日	年 月 日
誰に、介護されたいですか？ ①家族 ②介護サービス ③家族等の判断に任せる ④その他()			
どこで、介護を受けたいですか？ ①自宅 ②施設 ③家族等の判断に任せる			
自宅に住むことができなくなったら、どうしますか？ ①家族の家 ②施設 ③家族等の判断に任せる			
介護費用の支払いは、どうしようと思っていますか？ ①年金から ②貯金から ③保険から ④家族等の判断に任せる			
介護を受ける場合、特に何を大事にしたいですか？ 「身だしなみは気を付けたい」、「大好きな野球は必ず見たい」等 <hr/> <hr/> <hr/>			

最期を迎えるときの希望

*あなたの希望に近いところに○を記入しましょう。

	記入日		
	年 月 日	年 月 日	年 月 日
最期まで自宅や家族の家で過ごしたい。			
できるだけ自宅で過ごし、最期は病院で過ごしたい。			
状況に応じて家と病院を使い分けたい。			
病院・ホスピス・老人ホームで過ごしたい。			
その他の希望（下記に具体的に記入）			

豆知識 延命治療とは

延命治療とは、命を延ばすことを目的に行う治療のことです。現代は医療技術の発展で、様々な治療を受けられるようになりました。病気になったとき、投薬などの治療を施しますが、延命治療は栄養剤などを与えて死期をある程度引き延ばすために行います。

不明な点があるときは、医師に十分な説明を受けましょう。

選択肢 I

生命維持のための最大限の治療を希望する。

心臓マッサージ (胸骨圧迫)



心臓の拍動が停止している時に、胸のあたり（胸骨）を圧迫して心臓から血液をからだ中に送り、心臓や脳などへのダメージを少なくする方法です。医療機関では心臓蘇生薬も同時に使用し、心拍の再開を促します。

カウターショック (電気ショック)



電力を通し、不整脈を整脈に回復させる方法をいいます。心臓をはさむように電極を皮膚に貼り付け、短時間で大きい電流を通電します。一般の市民でも使用できるよう“**AED**”という機器もあります。多くは心臓マッサージと組み合わせて行われます。

気管挿管



挿管チューブ（くだ）を、口もしくは鼻から気管まで入れて人工呼吸器につなぎます。苦痛を伴うため、鎮静薬で意識を下げて処置します。緊急時に行われる行為なので、長期間、人工呼吸を行う場合は気管切開が行われます。

人工呼吸器



脳死など昏睡状態にあり、自力で呼吸ができない、肺機能の低下で血液の酸素化が十分にできない状態などの時は、人工呼吸器で心肺機能を維持し延命させます。生きる時間を長くできますが、人工呼吸器を外してしまうと命を絶ってしまうことになります。




気管切開



呼吸管理が1～2週間を超えて長く必要な場合や鼻や口から呼吸ができない場合に、のどを切開して気管に穴を作り、呼吸を維持する方法です。声が出なくなることが多いです。

選択肢 2

最大限の治療までは希望しないが、継続的な栄養補給は希望する。

<p>胃ろう</p> 	<p>胃に直接栄養を補給する方法です。お腹に小さな切り口を作り、胃までのトンネルの管を取り付けます。ここから直接胃に流動食を注入します。</p>
<p>経鼻経管栄養</p> 	<p>鼻の穴からチューブを通し体内に栄養を注入する方法です。短期間で嚥下障害が治る可能性のある患者向きですが、装着時には不快感や苦痛を伴うことがあります。胃ろうよりも短期間で口から栄養が取れる見込みがある場合に行います。</p>
<p>中心静脈栄養</p> 	<p>体の中心に近い部分の太い血管に直接点滴をして栄養補給する方法です。何らかの病気や事故で長期間、食事を口から摂取できない人や消化管が機能していない人、今後の治療や療養のために体力低下を防ぐ必要がある人に対して行います。</p>

選択肢 3

延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。

痛みは多くの場合、注射、飲み薬などでとることができます。かかりつけ医と相談しながら薬などを使いコントロールしていきます。回復の見込みがある場合は除きます。
治療に関しては、医師と相談しましょう。

選択肢 4

その他の希望 〈例〉

<p>延命治療は行わず、自然にゆだねる。</p>	<p>食べられない＝飢えの苦しみがあるように思いますが、全ての身体機能が弱ると、栄養分をあまり必要としなくなり、つらさを感じられないといわれています。</p>
<p>重篤な脳障害を受け、回復する見込みがない場合には、延命治療をしないでほしい。</p>	<p>事前に家族間で話し合い、自分の意思をしっかりと伝えておくことが重要になります。</p>

延命治療を望む・望まない、それに対しどのような治療を受けるか、決めるのはあなた自身です。どのように選択するか、いざというときすでに自分の意思が表せない場合があります。そのため、もしものときにどうしたいか、元気なときから考えて、自分の意思を表明しておくことが大切です。